

刻白爾天文圖解

二五
2151
2



下

刻石爾文圖解

5
2151
2



刻日爾天文圖解卷下

串都

江漢司馬峻選



人地球ノ上ニ居ラ天ヲ仰望ニ天旋テ大地
靜ナリ日月星辰移リテ昼夜シナレ三百六
十五日五時一晝夜ヲ二四十九分一時六十
過テ一年ヲ十ス四季春夏アリ寒暖ヲ十ス
其理ヲ究ニトスルニ恒ニ二十八宿ヲ知ルニ
アリ天一年ニ一周廻スルヲ見ナリ天旋テ

伊能氏曰
一度星數
二十八里
二分

地旋之然ルニ天ノ旋ハ是地ノ旋ニ也地旋ル
トキハ天旋ガ如シ舟ノ行ニ岸ノ移リ旋ルニ
似タリ是ヲ地轉ノ説ト云然ニ一昼一夜ヲ
乃ハ地球旋轉シテ日ノ向フ所昼ヲナシ日ニ
背ク所夜ヲナス地球ノ周廻一万〇八百里
日本一一度三十里地ノ廻リ三百六十度
第一圖

圖ノ中心Sハ日輪ニ其外環Aハ水星天Bハ金星
天Cハ吾地球天Dハ火星天Eハ木星天Fハ土星天
Gハ恒星天Hハ彗星ノ行環ニ吾地球一旋轉

日輪黃道
ヲ一日ニ進
ム一一度五
十九分八
秒ナリ

シテ天ノ一度ヲ進ミ三百六十五日余ヲ旋
轉シテ天ノ三百六十度ヲ地球一周廻シテ
一年ヲナス
地球ノ南北ニ樞軸アリ北軸ヲ以テ上トス
上下南北兩軸ニ傾アリ一昼夜ヲ一旋轉ス
ル軸ニシテ地球ハ傾テ連轉スルニ三百六
十五日余ナリ其環ヲ地球行環ト名ク則黃
道ナリ圖ヲ見テ曉ベシ南北樞軸ノ中ノヲ
名ケテ極軸ト云其極ノ當ル天ヲ北極南極
ト云地球一年ニ一周旋スル軸ヲ黃道軸ト

日輪
天ノ
中心
アリテ
傾ノ
軸アリ
一旋
轉スル
一ニ
十五
日半
ナリ
日輪
中ニ
紋アリ
依テ
之ヲ
測量
スル

云テ曰ク此行環ノ黄道ト名ク黄道ヨリ南
北軸ノ傾キノ隔リヲ二十三度半トス地球
ヲ平分シテ其半ヲ赤道ト名ク
日輪吾天ノ中心ニアリテ傾ノ軸アリ一旋轉
スル一ニ十五日半ナリ日輪中ニ紋アリ依テ
之ヲ測量スル
日輪ノ外天ノ一層ハ水星ノ運旋スル環也
二層ノ天ハ金星ノ運旋スル環ナリ三層ノ
天ハ吾地球ノ運旋スル環ナリ四層ノ天ハ
火星ノ運旋スル環ナリ五層ノ天ハ木星ノ

恒星天
十八宿及ヒ
衆星ノ天
ヲ云其高
キト無量
ナリ

運旋スル環ナリ六層ノ天ハ土星運旋スル
環ナリ此環ヲ吾天ノ日輪天ト名ク其外天ヲ
恒星天ト呼テ吾天内ニ非ス其高キト思議
スヘカラス 恒星ト名クル者其象ヲ變セス
且天ヲ移サス萬古列ヲ失ス故ニ列星ト名
ツノ星皆大小アリ金銀ノ色アリ天漢ノ中
帝氣ト名ル者星ノ象ヲナサス故ニ遠鏡ヲ以
テ觀ルニ悉ク小星ニシテ際ナシ層々ト重
リテ地上ノ肉眼ニ視ルト虽も吾天ノ五星
也キ者ニ非ス日輪ノ如キ者ナリ故ニ天無數

具定リナレ

日輪ノ外天ヲ旋ル者ハ吾地球及ヒ五星ヲ
以テ六ノ惑星ト名ク一星ニトモ其行疾キト
遅キトアリ地球ノ行アルニ因テ地上人ノ之ヲ
視テ惑星ノ天ノ衆星ノ旋リ移ルニ異ナリ故ニ
六惑星ト名ツク
六惑星ニ副テ旋ル小星アリ之ヲ十小惑星
ト名ク其小惑星十者ハ地球ノ月ノ如キ
者ニシテ土星ニ小惑星アリ木星ヲ圍テ旋
木星ニ小惑星アリ同ク木星ヲ圍テ旋ル地

十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十

球ヲ圍テ旋ル者ハ月輪ナリ一ツノ小惑星ト
ス月吾地球ニ近シ故ニ大ニシ
早辰星水星ト名ツクケル語メルまス
早太白星金星ト名ク
地球土地ト名ツク
火星惑星火星ト名ク
木星惑星木星ト名ツク
土星惑星土星ト名ツク
日輪ヲ圍テ旋轉ス日輪ハ火
元ニシテ五星及地球ハ水ノ元ニ火ハ水ニ

ハールト
マルス
ユビテル
サーラエルニエス

入ル故ニ動キヤマズ之ヲ天機トシテ天ノ
氣ト火ト水トシテ外ニ物ナシ

吾天ノ中心ト呼者ハ何シテ中央トスヘキヤ

夫中心ハ地球及五星ノ中心中央ヲ指スヘシ

五星ヲ辨シ知コト欲セハ恒星ニ十人宿和蘭

宮ト此黄子ノ環ニ係リテ必光甚鮮明ナシ

者五星ノ一ツハ水星日輪ニ近シ金星又日輪

近シト角其環高シ朝ニ人東ニアテ暮ニ人

西ニ現ル之ヲ宵ノ明星南ノ明星トシ西洋

器ニ正スニ正トシ望遠鏡ヲ以テ之ヲ望ミ

下
神
三
三

視ニ年月ノ如シ日輪周圍ノ行環亦トシテ

高シ或ハ卑シ日輪ト正對スル時ハ満月

如シ日輪ニ背ク時ハ三日月ノ如シ火

ニ星ハ地球ノ外ニアリ望遠鏡ヲ以テ火星ヲ

視ルニ惑星ヲ見ズ惟木星ハ小四星アリ本

星ヲ中心トシテ旋ルト魚行環ニ差ヒアリ

各己レノ行環アリテ木星ノ象満月ノ如シ星

面中三帯ノ紋アリ回ノ如シ

土星ニハ五星アリ本星ニ環アリ其環光リテ

球形楕圓ノ如シ圖ヲ見テ知ヘシ

第二十八
圖アリ

金星ハ日輪ノ周圍ヲ運旋スルノ行環ニ百二十四日十六時四十九分スレテ昼夜二十四時一時六十分金星中心ノ隔リハ七百二十四分

第二

日輪ハ吾天ノ中心ニアリ、宙冥ハ中心ニ飛ス皆傾ケリ又五星及地球ノ行環モ楕圓ナリ天ノ中心ハAナリ日輪ノ傾キハSナリBセテDハ五星及地球ノ運旋スル環也地球Bノ所ニ在ルヲ夏至トスCセノ所ニ在ルヲ秋分トシDニ在ルヲ冬至トシEニ在ルヲ春分トス

ニ表測量
則ト夏全
冬至ニ日
輪留ヲ旋
不極カレ

トス Bバ Dデ ノ一線ヲ日輪ノ留リト名ツク

第三

五星及地球ノ各傾キノ差ヒアリ其行環ヲ異ニス A B C Dハ地球ノ行環ニシテ則チ黃道ト名ツク

吾地球全
天ノ傾ヲ以
一年ニ運旋
スル環ヲ黃
道ト名ツク
五星黃道
環ヲ旋ト
名ツク
地球ノ環
ニ差ヒアリ

水星ノ差ハ六度五十二分金星ノ差ハ三十三分火星ノ差ハ一十五分木星ノ差ハ一十二分土星ノ差ハ二分三十分右ニ云カ如ク五星ハ黃道ヲ行ト宙行環ニ傾アリ故ニ食ノ如クニ交アリ Bハ上昇ノ



日月五星
及地球
中心
傾キアリ

交点ノ下降ノ交ナリ 黄道ト差ノ環ト喰度
水星ト金星ト下ノ天ノ惑星ト降フ地球
ト日輪トノ間ニアル故シ 水星日輪ヲ中
心トシテ運旋スル日數ハ七十日二十三時
六十分水星日輪ヲ降ウツ二百八十七分是
地球ノ降リヲ一千分トシテ算ス
水星日輪ヲ中心トシテ旋ル其心ノ差八十
分五星及地球日輪皆傾キ旋ル由水星ノ
樞軸ノ旋轉スルヲ知ルアタリ是日輪
ニ六分ヨリ地球行環ノ差ハ三十分トシテ
此キカ致シ

金星日輪ヲ中心トシテ其周圍ヲ運旋スル
一二百二十四日十四時四十九分二十秒又
行環ノ隔リハ七百二十三分

第四

金星出中ノ中心ハ五分トス出中トハ地球
及ヒ五星ノ旋ル行環ノ中心ハAナリ出中
中心ハBナリ其中心ノ差ヲシテ
金星地球ノ如ク傾テ樞軸アリ地球旋リテ
一昼夜ヲスルカ如ク金星ノ旋轉ハ四時七分
七秒樞軸ノ傾キハ十五度又二十度トス行

四十日水星ノ退行ハ十八日
金星ハ上ノ合伏ヨリ下ノ合伏ニ旋リ至ル
時西ノ方日輪没スル後現ル之ヲ曙ノ明セト
呼又下ノ合伏ヨリ上ノ合伏ニ旋リ至ル
東ノ方日輪昇ラントスルノ際アスル之ヲ朝暁
ト云フ

第八

日輪毎日東ニ出テ西ニ没シ地球一昼夜ヲ
ナスハ則地球ノ一旋轉スル故シ
地球ノ行環R₁ハ恒星天

地球₁アリセニ至ル時日輪₁ヨリR₂ノ恒
天ニ係リタル方如シ地球ノ行環ハ金星トハ
星環ノ間ニアリ其一周ノ日数三百六十五
日四十九分是レ一年シ

第九

地球日輪ノ周圍ヲ一年ニ一周スル環ヲ黄
道ト名ツク黄道ニ傾クテ四十七六年又地
球一昼夜ニ一旋轉シテ黄道ノ一ノヲ進ム
地球ノ樞軸ハ上ヲ北トシ下ヲ南トス

地球ノ行環A B C Dハ恒星天ノ行環トシテ

第十回
地球ハ
小十九
第九回
三符
見ル

初六宮
上秋分
冬春
分
後
春分
秋分
ト

Sハ日輪ABCDEFハ地球ノ行環此圖ハ天
上ヨリ見タル象ニシテ地球ノ行環ハ則黄
道是之ニ十二宮ヲ配ス白年天秤ノ二線ハ晝
夜平等ニシテ巨蟹ト磨蝎ノ一線ヲ日輪留
ノ十字線ト名ク地球巨蟹ニ至ル時ヲ冬至
トス天秤ニ至ル時ヲ春分トス又第九回
地球ノ極軸Pハ南北極ノ赤軸I
吾日本ノ天頂トス
地球初メ六宮ヲ旋轉スル一
百八十六日
十一時五十分後ノ六宮ヲ旋轉スル一

百七十八日十七時五十七分
五十三分ノ差アリ

第十一回

外環ハ恆天ノ十二宮中ハ日輪其外環ノ
ABCDEF地球一年ニ周旋スル行環地球B
アル時日輪ハEニ至リ初宮ニ當ル地
球Dニ至ル時ハ日輪Pノ天秤アリ赤地球D
ヨリABニ至リテ六宮ニ至リ天
人馬磨蝎 地球ノ行環楕圓ニシテ
冬至トス日輪地球ニ近シ故ニ最卑ト名ク

遠き者ハ
少く近きモ
大なる日
輪地ヲ
以テシ

又近天ト云フ
冬至ハ日輪大ナリAハ地球ニシテSハ日
輪ナリ日輪ノ中径三十二分一度六四十七
秒十分六夏至ニハ日輪小シテ地球ノ障リ
遠シセハ地球Sハ日輪日輪ノ中径三十一
分十分
日輪ノ地球行環ノ中矢ニ非ズ地球環ヨリ
日輪在位マテノ障リ其中間ノ一千分トシテ
全年ノ中ニ至ルニ七十リ故ニ大障ハ一千〇
十七ナリ小障ハ九百八十三

第十三回

木星ハ一周十二年皆又四千三百三十二日
十二時木星日輪ヨリ其障遠キテ五千二百
令一ナリ地球ノ障ヲ一十分トシテ木星ハ
五倍餘ナリ又木星モ地球ノ如ク楕圓ノ環
ニシテ其環ノ中心ニ差ヒアリ出申スルニ二百
五十木星極軸ノ旋轉スルニ九百十九分ヤ
彼木星ノ一昼夜ハ吾地球ノ九日十九分也
第十三回
土星木星ヨリ又大シ甚遠シ日輪ヲ障リ

星白
二十八
生人

九千五百三十人出中八五百四十七土星ノ
一周ハ二十九年半又一萬令七百五十九日
七時土星遠クシテ極軸ノ旋轉ヲ見ズ此を
只環アリ固ノ如シ

第十四回

地球ヨリ日輪在位マテノ障ヲ地球半径ヲ以
算ス地球半径一千七百〇人里八分六厘五
毛一ム三十里ニテ一里三丈六尺如本ノ障
大障一千一百八十二倍四十三百三十二日
中障一千一百四十倍



少障一千一百〇五倍
Sハ日輪Aハ地球Bハ天ノ中心

第十五回

上ノ惑星ノ土木火ノ三をシSハ日輪其
外環ハ地球ノ行環ナリ地球Dニテハ或るをI
所ニ在ト能恒天ノAニ現ルルシ地球QヨリB
星ノ所留滞スルニ見ルルヨリDノ台座ヲテ
通リDニテ至ルハ恒天ノEニテ見ルルテ地
球Gニ至ル所恒天ノGニ現ルル又留滞スルシ
見ルル是レIノ或るをハ恒天ノA B C D E F Gト

黄道ノ宮は正宿行ヲ右旋ニシテ復行スルヲ
見ルコト正行ト云

第十六回

地球の中心に恒星の恒天の中心を見ればC
Dノ所ニ至テ對衝ノ所ヲ過テEト至
レハ恒星の中心に宿行
之進行スルコト退行ト云
火を退行ハ凡ソ三月 木を退行ハ四
ヶ月 土を退行ハ四月 土を退行ハ
九月

退行ノ所
西ヨリ東
東ヨリ西
西ヨリ東
東ヨリ西
西ヨリ東
東ヨリ西

七分三十秒中心ノ隔リハ一千八百五十八
分出中ハ七百三十七行環ノ傾キハ四十分
十一分

第十七回

月輪ハ地球ヲ回トシテ運旋スルナリ其行
環ノ隔リハ地球を至テ以テ測ル時ハ六十
倍年一十二万令三百七十四里四分三厘二
毛五忽出中人三倍年五千九百八十一里令
二分七厘五毛月輪ハ黄道環ヲキリ通ル所
凡五度半トス是ヲ文ト云此文一年退行

スル運旋十九分十八分四十三秒ニシテ更
 き環ノ宮は宿汗ヲ逆行シテ十九年二百三
 十四日ヲ入心ナリ日輪ノ一周行ハ二十七
 七時一昼夜ヲ三
 十の時トス 四十三分一時ノ六
 十分トス

第十八回
 月輪一周ノ一月ハ二十七日七時四十三分
 日時分ノ留ニ自己ノ行環ヲ旋ル又月輪合
 年ノ一月ハ二十九日十二時四十三分三秒
 此アイタ我月ヨリ波月ヲへて夜ノ合年ノ
 一月ハ廿七日五時一十分一

日ヨリ長ニ回ラ見テ曉ヘシハ日輪A B
 地球ノ行環ナリ M C 地球セニアル時ノ月
 輪ノ行環ノ中徑ナリ M I 地球ト回ル
 月輪ノ中徑ニシテ地球ハCニアリ月輪ハIニ
 在テ日輪ト合年ニシ 地球Cヨリdニ移リ
 行ク故ニM I ノ中徑ハ則M I ノ中徑ノ傾
 ナリ月輪Iニアリテハ日輪ト合年ニ人非ス
 月輪自己ノ一周ニシテ地球dニアリテハ日
 輪ノ線ヲ中至トス I ヨリeニ至ノアイタ合
 年ノ一月ハ日輪自己ノ一周ヨリモ長シ月

輪合年ノ所ニ在テハ吾地球ヨリ見ルニ日輪ノ輝キニテ月光ナシ
第十九回

a T b ハ地球ノ行環ナリ S 日輪 T ハ地球
A C E G ハ月輪ノ行環月輪 A ニアルハ地球
日輪ト合年ニ日輪ハ月ノ後ニアリ之ニ依テ
日輪ハ月生田ヲ照シ日輪ノ方ニ月ハ見え
月輪ニアル時ハ對衝トナテ地球ハ月ト日
輪トノ中ニアリ地球ハ月輪ノ日輪ニ
對スルニ又ハ此ニ因テ月ト云又 C E G ト

亦ニアリテハ是ヲ四象限ノ行ト名シ月ノ
半回ヲ照テ地上ノ人其半ヲ望ム故ニ半輪ノ
如シ E T 上 B 上ニ在テハ角ノ如シ D E 上ニ在テハ
凸カニ視 (E 上ニ在リテ) 滿月トナル故ニ A 上
新月ト云ル A B C D E 上ニ在テハ E F G
H A 上ニ在テハ下弦ト名ツル

第二十回

土を本をニハをアリ吾地ノ月ト同シハ惑
星ト名ツク其ハ星本星ヲ心トシテ旋トイハ
其ハニ差アリ各障リテ異ニス彼國ノ得歴

寧可南ト云望遠鏡ニ非シハ是(ス)
 木をノ中回を中回ノ際リ第ノ木をハ本を
 坐至ヲ以テ五十六百〇七倍第ヲ木をハ九
 千〇十七倍第ヲ木をハ一万四千三百八十
 四倍第四木をハ二万二千二百九十九半倍
 七倍一周ノ日時分秒ハ木を第一ノ木を其一
 周行ハ一日十八時二十七分三十四秒第ニ
 木をハ三日十三時十三分四十三秒第三木
 をハ七日三時四十二分三十分第四木
 をハ十六日十六時三十二分九秒

第二十一回

BCハ木星ノ行環ANIMハ地球ノ行環
 SPハ月輪DGPEHハカをノ行環地球A
 在テカをハEトDアリAEトAD引系
 Aノ地球ヨリEトカをハ本意大遠を隔ル
 大ナリカをノ正行ハDヨリPニ至ルラヒ
 マリト云Pハ上ノ合會Eニ至ルハAノ地球
 ヨリ視ニ西ヨリ東ニ至ル順行ナリ又退行
 Eヨリ下ノ合會EヨリDニ至ルAノ地球
 ヨリ視ハ東ヨリ西ニ至ル逆行ナリ

二丁目
三丁目

土星ニ十五星本星ヲ隔ク一第一ノ色ハ本
星ノ半至ヲ以テ一百九十三第二ノ色ハ二
百四十七第三ノ色ハ三百四十七第四ノ色ハ
八百第五ノ色ハ二千三百七十五ナリ
土星ノ色ハ一週ノ日時分ハ第一ノ色ハ一日
一時十八分二十七秒第二ノ色ハ二日十七
時四十一分二十二秒第三ノ色ハ四日十二
時二十五分十二秒第四ノ色ハ十五日二十
二時四十一分十秒第五ノ色ハ七十九日
七時四十八分ナリ

土木二年ノ色ハ本星ヲ隔ク一第一ノ色ハ本
星ノ半至ヲ以テ一百九十三第二ノ色ハ二
百四十七第三ノ色ハ三百四十七第四ノ色ハ
八百第五ノ色ハ二千三百七十五ナリ

第二千二百四

IAKノ地球ニTハ地球ノ地心AB線ニ
視地ニトスAヨリMノ月輪ハSノ方ニ
ニトカラAノ地ニヨリBノ方ニ見ユナリ
然レ地球ノ中心Tヨリ見ハ日輪Cニナリ
月Dニテ則BCハリ終ノ視ニナリBDハ
月ノ視ニナリ感ニナリ地球中心Tヨリ
視地ノ恒天ノ方ニナリAノ地ニヨリハGニ

初也平
トハ人何
上ヨリ天
何色ニ
見ユナリ

現レテ則レサナリ地球ノ上天頂ニ升テハ
視美漸々減シテH乙ニ視テハ視サナリ

第二十三回

Aハ地球ノ地平Hハ天頂Tハ地球中心B
Pハ霧環^{霧環トハ地球ノ}霧環トハ地球ノ霧環ニマ
Aハ地平Hハ天頂Tハ地球中心B
恒天ヲ望ムニGハHニ視テハ霧環
ノ視テハ霧環
日輪視サナリ
日輪毎ニレシテ二十四分正ナヨリ高レ一

度ニシテ二十六分正度ヨリ高レニテニシテ
二十分正ナヨリ高レ四分ニシテ五十分正
ナヨリ高レ七分ニシテ三十分正ナヨリ高レ
十分ニシテ十分正ナヨリ高レ十分正ナヨリ高レ
十分正ナヨリ高レ十分正ナヨリ高レ十分正ナヨ
リ高レ三十分正ナヨリ高レ十分正ナヨリ高レ
恒々ノ視テハ
恒々ノ視テハ
ニシテ二十三分正ナヨリ高レ十分正ナヨリ高レ
十五分正ナヨリ高レ十分正ナヨリ高レ十分正

ナヨリヨリシ七ナニシテハ分ヨクヨクヨリヨリシ
十一ナニシテ五分ヨクヨリヨリシ十五ナニ
ニテ三分ヨクヨリヨリシ

視学ハ真術洋中六船ヲ加馬ス航海ノ要用ニ
シテ春及秋冬ニ視差ノ多少ヨリ空易ノ学ニ
非ス只萬分ノ一言ヲ略説スルノミ

第二十四回 月蝕一ノ回
H^ケGノ線ハ月ノ光ニ生田^{エラケ}Gハ光ニ環^エハ
月支ニ近^カレ^カハニ三分ノ既ナリM^エL^エO^エハ
皆既ノ象ニシテHノ方ヨク既ニ始リLニテ

甚シクOニテ終ル月地球ノ影ノ中ヲ通
リテ既スルハ皆既ナリHニ既ナリNニ
甚シクQニテ終ル

月蝕ニ回Sハ日輪Tハ地球Hハ月輪Bハ
霧環Aハ日輪ノ餘光CハHハ餘尖霧環ニ徹
通ニテ光ノ終尖リテHニ至ル故ニ皆既ト
イハレ全ク光ヲ失ハス 坦雅ル全ク光ヲ失ハストハ月光ヲ失フト
ハ在具色ヤケ子ノ如ク或ハ銀色死ク
日蝕ニ回Sハ日輪Mハ月輪Tハ地球Hハ
日輪ヲ蔽テ月ノ影地ニ下ルd^エc^エハ全クノ
皆既ニシテb^エd^エモ土^エc^エモ月影全ク地ニ下

スト維純ヲ見ルナリ
四ノ日月輪遠天ニ偏ルル時月全ク遮蔽ス
月ハ日輪ノ走リ餘ラズ是ヲ皆輪ノ蝕ト云
五ノ日月輪近天ニアリ時月大ニ月ハ小ニ
然レ月地球ニ近シ故ニ日走ヲ數フ是ヨリ全
蝕ト日月地球ノ四トシテ旋ルト云其環楕
四故ニ地球偏ルル者キト近キトアリクニテ
遠天近天ト云

第二十五⑤
Sハ日輪A Bハ霧環Iハ地球Cハ地球

地上ノ人霧環ノ中ニツテ日月ノ歩段スル
時ハ大ニ午時南中シテハ小ナリ霧環ノ厚
キト薄キト故ナリDハ日月地球ニアリテ
霧環厚シ且ハ天頂ニシテ霧環薄シ又曰ク
日月歩段スル時支那ニ日ヲ視テ眩ス霧
環ハ是ニ地氣ニシテ天ノ氣也ト云一シ地氣蒸レ
昇テ霧環ノ中ニ塵埃ノ氣是ヲ多トフ水
中ノ土埃アリ積テニ云ルカ如シ天ノ朦氣
之ヲ野島ノ霧氣ト云

第二十六⑥

Tハ地球Aハ霧環Bハ地上人住ラスル
Cハ冷降Eハ熱天トス地球ノ旋轉スル
霧環ト共ニス 地氣ノ温ト熱天トノ界僅カニ
冷ラテス 一カ冷降降是ナリ 外ルモヤ一テルラ
以テ降トス同ノ如シ

第二十七回

霧環ハ地氣ニシテ是ラ淡水トシ人ハ其陸
水ノ中ニ起居ス魚ノ濃水ノ中ニ居カス
第二十八回
濃水ヲ以テ淡水ニトフAハ濃水ニシBハ

重キ大石ナリ魚水中ニ居ス魚ハ人ニトフ
同ヲ見テシル

第二十八回

木色ハ吾地球ノ十二年ヲ以テ木色ノ一年ト
ス三年ヲ以テ一季トス 此等ノ環ヲ以テ觀ルニ
色面淡墨色ニ帯ノ紋アリ 月ノ中ニ紋
土色ハ吾地球ノ二十九年半ヲ以テ土色ノ一
年トス七年半日陰ヲ以テ一季トス 此等ノ環
繞ニ環アリ 其環先テ本是ノ如シ

第二十九回

刻日西之方日射

又日草木ノ色五彩ヲ表ス皆水ト火トナリ
タトハ花ノ多クハ緑色ヲナス天ノ青も地
ノ黄も其色也履るしハ則緑色ト
ナル其色ハ將枯トスル其色黄
是ノ青も氣ハ天ニ去リ黄も地ニ
帰るんし草木ノ色ニ亦又及ヒ其
如ク同也

派色倍
ヨロイ
リセニ
集ヲ
時先リ
十ニ
印リ

日輪ノ中里點ヲこゝ東^方ヨリ入テ西方ニ
出ワ此物日傍ノ物ニ非ス霧霧ノ中ノ土氣
冷際ノ上執際ノ界ニ係リテ塊ヲナス者也
り輪ノ色^也此物ハ地ノ色也^也冬春を

第三十回

虹ハ微薄ノ雨ニ日影ノ映射シテ五彩ヲ表
相ニ西^方雨^方ニ時虹ヲ表ス晚ニ雨ニ
時虹ヲ表ス雨^方ニ時虹ヲ表ス雨^方ニ時
虹ヲ表ス雨^方ニ時虹ヲ表ス雨^方ニ時
虹ノ多クニナリ

GANSHODO-SHOTEN
KANDA TOKYO
田中 宗廣
店書堂松巖

文政七年夏七月廿五日
宗廣
傳

文政七年五月廿五日
十一日
宗廣
傳



